

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
104-118	小学校	算数科	算数	1
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・112 算数・113	新編 あたらしい さんすう 1① はじめよう!さんすう 新編 あたらしい さんすう 1② みつけよう!さんすう		

1 編修の基本方針

じっくり考え、学びを楽しみ、しっかり身につける

次世代を担う子どもたちには、予測困難な社会の中でさまざまな未知なる課題に向き合い、他者と協働しながら解決し未来を切り拓く力が不可欠です。

「新編 新しい算数」は、教育基本法の目的及び理念を踏まえ、幅広い知識と教養を身につけ、創造性を培い、筋道立てて考え、自立的、協働的に課題を解決する力を養うことができるように、次のような基本方針を特色として編修しました。

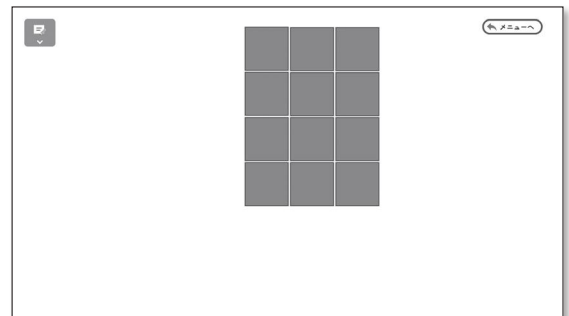


特色 | ICT のよさも生かした深い学びを実現

(1) 教科書の内容に即した QR コンテンツの質・量の充実

① 動画、シミュレーション、演習などの豊富な QR コンテンツの設定

☞ 第1学年では、確実に定着させたい数字や記号の書き方や計算の仕方の動画、教具の操作等で思考を支援するシミュレーション、練習問題デジタル版など、学びを支援するQRコンテンツを、全部で32設定しました。対面授業、オンライン授業、家庭学習など、シーンを選ばず活用することができます。ICT機器で教科書紙面に掲載した二次元コードを読み取れば、簡単に活用することができます。本資料の本頁下部にある二次元コードを読み取ると、各巻のQRコンテンツにアクセスすることができます。



▲② p.111 QR コンテンツ「ビルをつくろう」

② 個人を尊重し、その能力を伸ばす学びの支援

☞ 計算問題等の演習コンテンツには、自動正誤判定や結果の記録機能などをもたせました。個別最適化された学びを支援し、能力を伸ばすことができます。

③ 教師の指導・評価をサポート

☞ 例えば、シミュレーションコンテンツ使用時に、スクリーンショットを活用して子どもの端末の画像を収集したり共有したりすることにより、一人一人の思考の様相をよりの確に把握し、指導や支援、学習評価に生かすことができます。



(1) 学習の強固な土台を築く | 年①の体様・構成

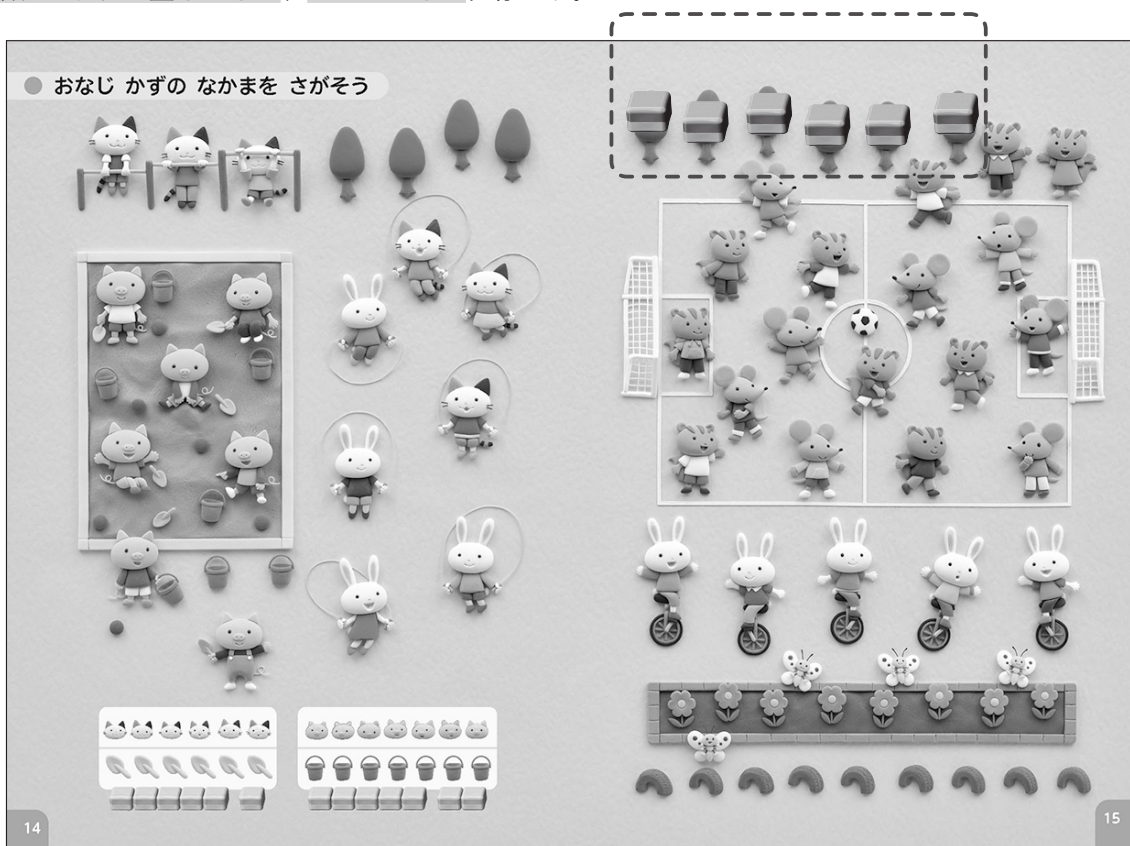
【大判化、ノート一体型の構成】

☞ 第1学年の入門期は、算数の学習への関心を高めながら、基礎的な内容の学習に取り組みます。それとともに、一定時間着席して学習に取り組むことに慣れるための大切な時期でもあります。「新編 新しい算数」は、保・幼・小の円滑な接続を重視し、1年①を入門期の学習用に特化して開きやすい中綴じ、かつ大判（A4判）としました。

① 紙面上の要素に算数ブロックを対応しやすくする

☞ 中綴じの採用により、紙面をよりフラットに開くことが可能になり、算数ブロックがすべり落ちにくい仕様を実現しました。

☞ A4判の採用により、紙面に掲載した動物などの要素の間隔を十分に確保しました。算数ブロックが重ならない、ぶつからない仕様です。



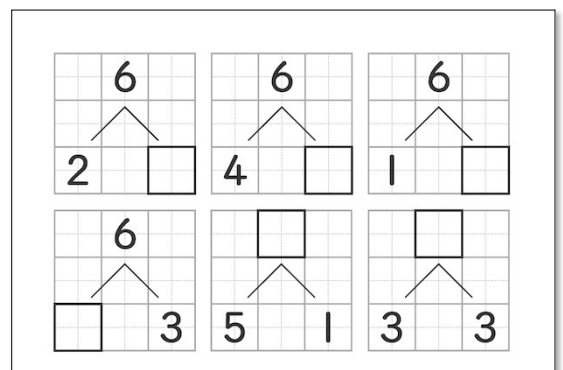
▲① p.14～15 「おなじかずの なかまを さがそう」使用イメージ

② 教科書に直接書き込みやすくする

☞ 中綴じ、A4判の採用により、紙面がフラットに開きます。また、書き込み枠を多く設定できます。教科書のみを使用し、方眼に数字を書くなどの表現の基礎を培うことができるようにしました。

☞ 授業中の教科書、ノートの出し入れが不要です。

☞ 鉛筆による書き込みやすさ、消しゴムで擦った際のインクのにじみにくさ、などの観点から書き込みの仕様に適した専用の用紙を独自に開発し、採用しました。



▲① p.18 「6はいくつといくつ」

【就学前の生活経験を算数の舞台に乗せるページの設定】

☞ スタートカリキュラムにおいては、数量や図形などへの関心を発揮することが重視されています。そこで、1年①のp.1～2には、就学前の多様な経験を想起するページ「くらべたことがあるかな」「おいしいのはどちらかな」を設定しました。多くの写真を掲載し、子どもが親しみや安心感、自信をもって算数の学習をスタートさせることができます。また、生活の事象と算数の学習とを関連させようとする態度や力を育むことができます。



▲① p.1

(2) 生きて働く知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけるための配慮と工夫

① 繰り返し何度も取り組みながら定着させるための構成（知識・技能の習熟、定着）

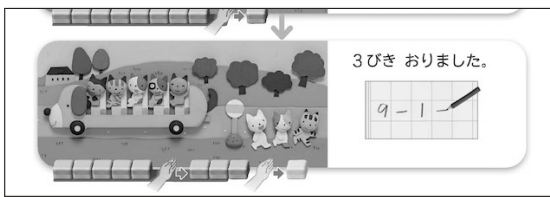
☞ 第1学年では、例えば10を合成・分解的に見る見方や、その見方を基にした加減計算の理解と確実な定着が不可欠です。そこで、10の合成・分解の定着のための授業外でも取り組める活動の例示をはじめ、繰り返し見て確認したり、繰り返し取り組んで定着をはかったりする練習問題等のQRコンテンツを設定しました。第2学年以降の学習に不可欠な基礎的内容の習熟、定着をしっかりとることができます。

② 復習の適切な設定（知識・技能の習熟、定着）

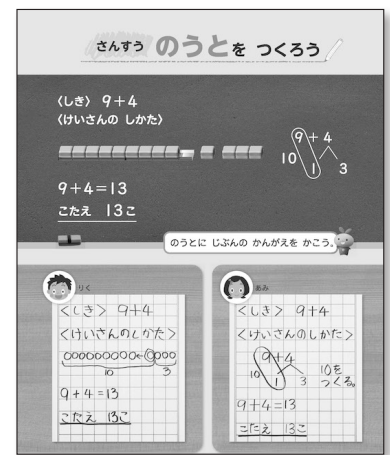
☞ 自社作成の学力調査をはじめ、各種学力調査結果を分析し、特に理解、定着度が低い内容を中心に復習するページ「おぼえているかな？」を設定しました。朝学習や家庭学習用の教材として活用が可能で、知識・技能の維持、定着をはかることができます（1年② p.13、50、59、71、90）。

③ ノートづくりの重視（思考力・判断力・表現力の育成）

☞ 思考力と表現力は互いを支え合う互恵的な関係にあります。「新編 新しい算数」では、第1学年から段階的にノートづくりを取り上げ、思考力・判断力・表現力を高める学習活動の1つとして重視しました。数量の関係の図や式による表現等、思考の可視化の例を積極的かつ段階的に取り上げており、子どもが参考にすることができます。



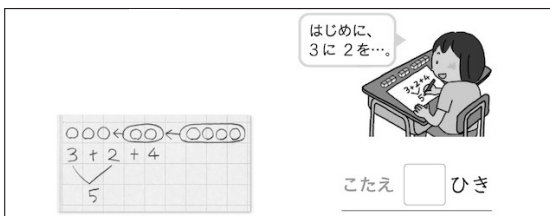
▲② p.53



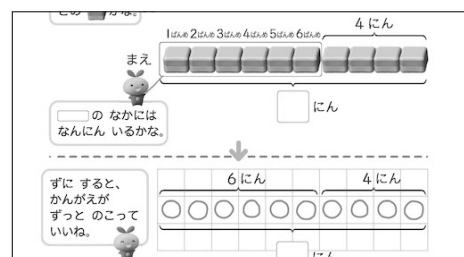
▲② p.63

④ 図、ことば、式を相互に関連づけることの重視（思考力・判断力・表現力の育成）

☞ 教具、絵、図、式、ことばを積極的に関連づけました。思考活動を促進するとともに、それらを表現し高めていくことを促します。



▲② p.52

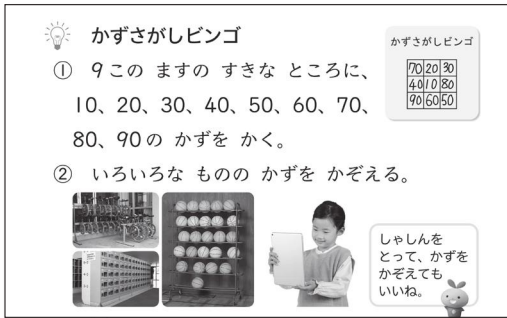


▲② p.112

特色3 学ぶ意義や楽しさの実感による、主体的に学習に取り組む態度の育成

(1) 算数と生活との関連を重視した場面や活動の設定

学校や日常の生活、他教科との関連を重視した場面設定や活動を随所に取り入れました。算数の有用性や学習の楽しさを実感しながら主体的に学習に取り組むことができます。



▲② p.105



▲② p.72

2 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
単元プロローグ、 導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの日常生活と学習との関連を重視して多方面から素材を収集し、学びに向かう意欲を高め幅広い知識と教養を身につけられるようにしました。(第1号、第2号) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ① 1～7、11、14～15、34～37、 ② 11、26～29、32～35、48、72、73 ほか
各時の問題や 学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 学びに向かう意欲を高めるゲーム的な学習活動を適宜取り入れ、きまりを守りながら取り組む大切さを学べるようにしました。(第1号) ● 他者との交わりを通して、自分の考えを自ら進んで表現できるように、多くの場面を例示するようにしました。また、発達段階に配慮しながら他者の考えを数学的に解釈しようとする活動例も示しました。(第2号) ● 他者と協働して行うお話づくりやゲームなどの学習活動を数多く取り上げるようにし、絵や写真も他者と仲良くすることの楽しさなどが感じ取れるものを掲載しました。また、2人組以上の活動事例を男女の組で示すようにしました。(第3号) ● 小動物や花などの種類、数を調べる活動など、生物や自然と触れ合う場면을学習の素材として取り上げ、自他の生命を尊重する心が育つようにしました。(第4号) ● 自分が暮らす地域と関連づけて考えたり、日本らしい美しい作法を読み取ったりできるように学校や公園、社会生活などを学習の場面として取り上げました。(第5号) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ① 12、18、20、22、24、 ② 18、32、68、74、 88～89、99、105 ほか ● ① 28、33、36、37、 ② 29、60、68～69、 73、81、84、99、107、 119 ほか ● ① 12、18、20、22、24、 ② 18、32、68、74、99、 105 ほか ● ① 5、14、15、 ② 2～7、11、14～17、 21～22、24、36～37、 86～87 ほか ● ① 3～7、11、14～15、 37、 ② 11、24、26、40、48、 105、108 ほか
各単元		

(1) すべての子どもが安心して学力を育むための配慮

① 特別支援教育への配慮

- ☞ すべての文章において、**文節改行(読みやすい位置での改行)**を徹底しました。文章の読解の段階でつまずきがちな子どもも、算数の学習内容に向き合いやすくなります。
- ☞ 問題やまとめなど**重要事項を枠で囲む**などして、一目でとらえやすくなるようにしました。
- ☞ ページ番号を**白抜き**処理し、ほかの数と区別しやすくしました。
- ☞ **独自に開発した UD 教科書体**を採用しました。
この UD 教科書体は、従来の教科書体に比べて太く、視認性をいっそう向上させたものです。
- ☞ イラスト、写真、図などを、**カラーユニバーサルデザイン**に取り組むボランティア団体の協力を得て点検し、見やすさ、わかりやすさを追求しました。



▲② p.115

② 多様性への配慮

- ☞ イラストや写真などでは、**性別、服装、人種などのバランス**に配慮しました。個人の属性や価値を尊重する態度を育むことを目指しています。

(2) GIGA スクール構想下における学びの充実

- ☞ 教科書紙面内容に関連する QR コンテンツの質・量を大幅に充実させました
(6 学年全体で 1455 コンテンツ)。
- ☞ 授業(オンライン授業含む)での活用も想定し、教師用指導書には指導者用デジタル教材も収載する予定です。感染症の流行等の不測の事態においても**学びを止めない**ことを重視し、支援します。
- ☞ デジタル端末は学習を深めたり広げたりするための道具であるとの認識のもと、端末の有効な活用方法、留意点をいつでも確認することができる QR コンテンツを用意しました。子どもが自律した端末の使い手となることを支援します。
- ☞ **学習者用デジタル教科書**を発行する予定です。
学習者用デジタル教科書および専用ビューアは、画面のタッチによる簡単な QR コンテンツの起動、書き込みや保存など、子どもの学びに適した機能を有する予定で、よりいっそう深い学びの実現を支援します。
子どもが操作したり書き込んだりした画面の画像をスクリーンショットで収集することにより、思考の様相や習熟の度合いを確認したり、学習評価に活用したりすることができます。



▲学習者用デジタル教科書の画面(イメージ)

※仕様は予告なく変更することがあります。

(3) 教師の支援

- ☞ 指導計画案(単式、複式)、教材の解説、展開案、評価規準、板書例、評価問題、教師の活用の特化した指導者用デジタル教材等で構成した教師用指導書を発行する予定です。
教師の働き方改革と指導の充実との両立を目指します。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

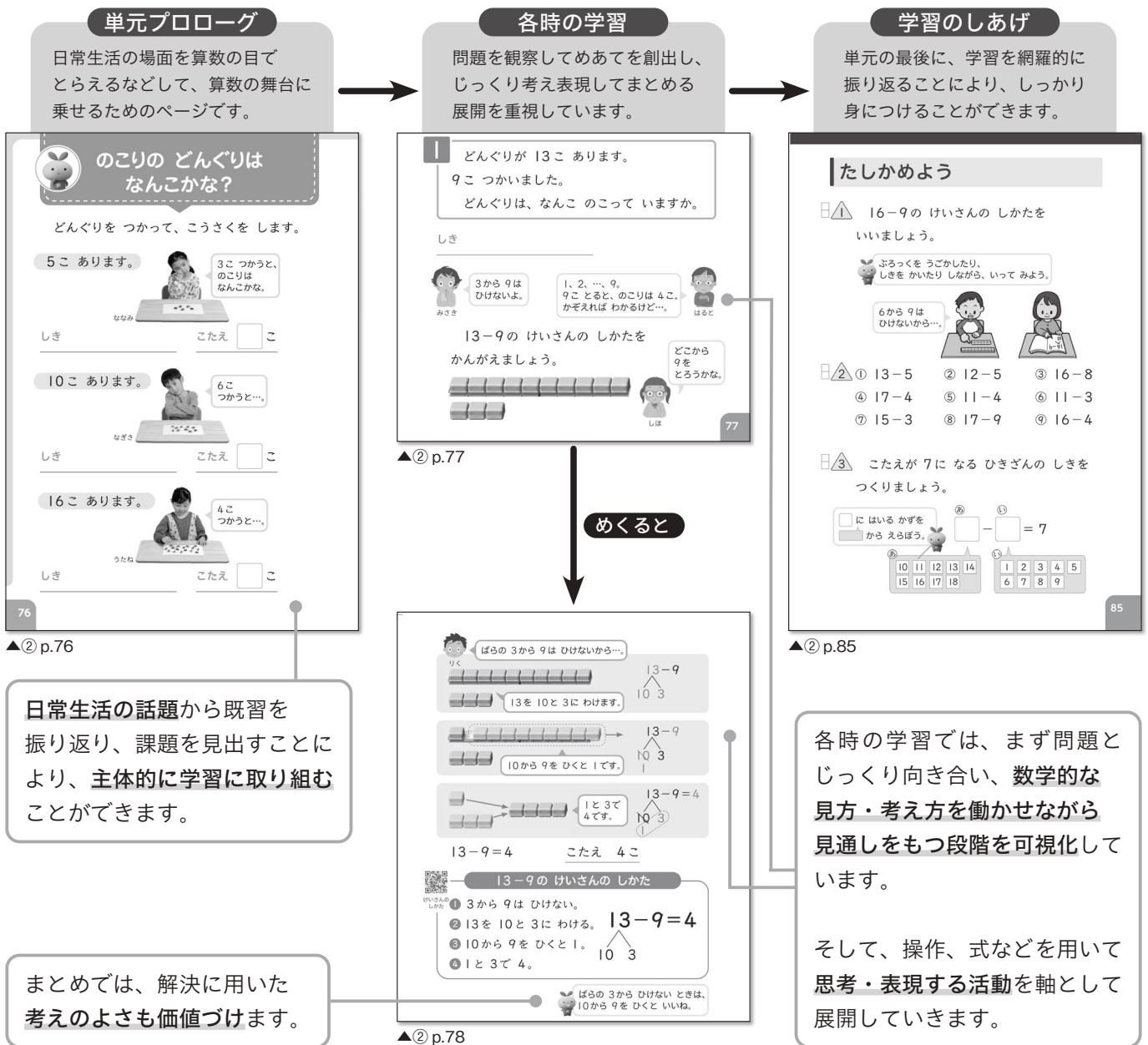
受理番号	学校	教科	種目	学年
104-118	小学校	算数科	算数	1
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・112 算数・113	新編 あたらしい さんすう 1① はじめよう!さんすう 新編 あたらしい さんすう 1② みつけよう!さんすう		

1 編修上特に意を用いた点や特色

「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する」。

「新編 新しい算数」は、算数科の目標を達成するための構成を基盤に、随所に取り扱いの工夫を施しました。

数学的活動を基盤とした各単元の基本構成



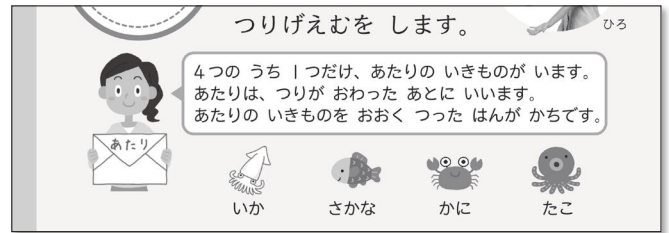
これまでの「新しい算数」の特長である丁寧な数学的活動の可視化を継承しつつ、吹き出しの内容をいっそう精選するなどシンプル化をはかりました。授業、自学を問わず、安心して使うことができる構成です。

(1) 第6単元「わかりやすく せいりしよう」～ 問題解決の文脈の重視 / QR コンテンツの活用

① 問題解決の動機を重視

☞ 「当たりの生き物が多い班が勝ち」という設定を通して、つりゲームでとれた生き物の数を調べる動機を明確にします。

(その他の例)
1年② p.26、36 など

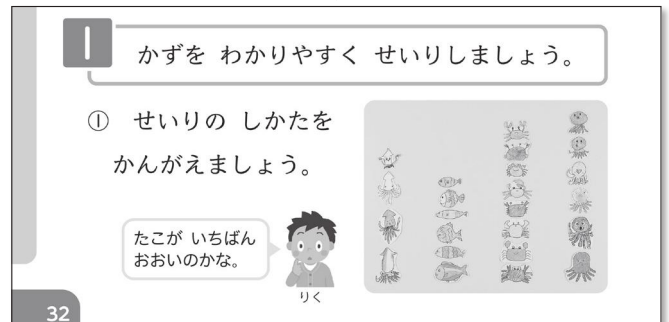


▲② p.32

② 課題の焦点化を重視

☞ 生き物はそれぞれ形も大きさも違うことに着目するための補助発問や吹き出しを設定することにより、どのようにすれば数をわかりやすく整理できるか、という焦点化された課題を創出することができます。

(その他の例)
1年② p.26 一番下の写真と子どもの吹き出し、
1年② p.67 しほの吹き出しなど



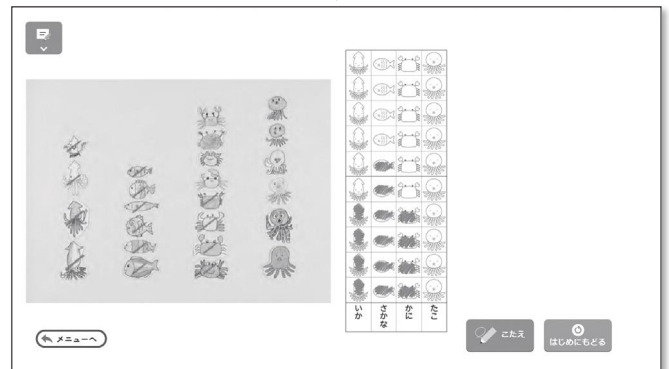
▲② p.32

③ グラフ作成の QR コンテンツを設定

☞ 生き物の写真に触れるとチェックが入り、グラフの生き物に触れると瞬時に色が塗られます。確実に1対1対応をさせながら効率的に絵グラフに表すことができます。

☞ または、はじめは教科書に色を塗り、その追体験による確認用としても活用することができます。

☞ 2学年以降の、表・グラフ作成 QR コンテンツ活用の素地づくりにもつながります。

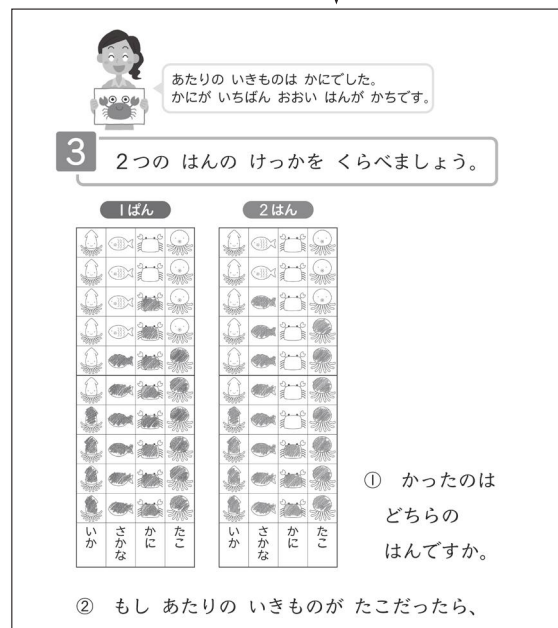


▲② p.33 QR コンテンツ「かずだけいろをぬろう」

④ データの読み取り、判断を重視

☞ 単元導入での学習動機に立ち返り、どちらの班が勝ったかを考察することを通して、学習したことよさや自分の成長を実感することができます。

☞ 2学年以降のデータの活用領域の学習でも、データ処理の知識・技能の学習だけに注力するのではなく、学習を生かしたデータの読み取りや判断を一貫して重視しています。今後、ますます必要となる統計的な問題解決の方法の理解やデータを活用して考える力の育成にいっそう力を入れました。



▲② p.35

(2) 第18単元「かたちづくり」～ 操作を重視し感覚を磨く / 以後の学習の素地づくり

① 身のまわりと算数との関連づけを重視

☞ まずは、身のまわりのものの形に着目することから学習に入ります。学習意欲を高め、主体的に学習に取り組むことができます。

(その他の例)

1年① p.1、11、

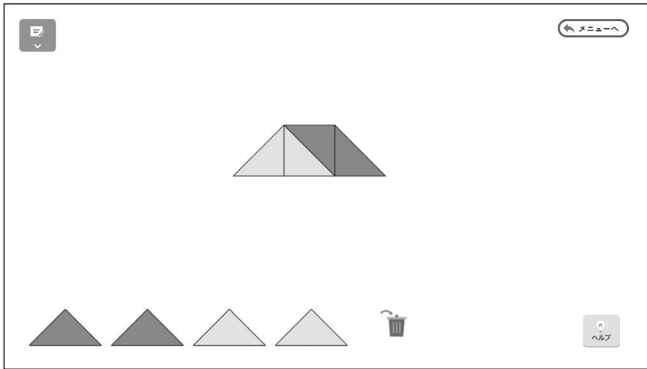
1年② p.11、26、48、105、108 など



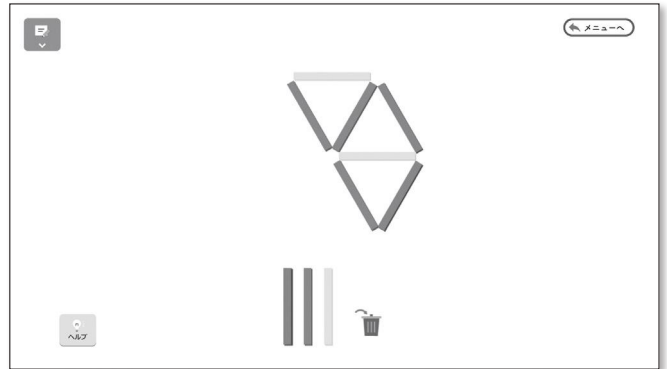
▲② p.120

② 図形操作の QR コンテンツの充実

☞ 図形に対する感覚を磨くためには、操作する活動が不可欠です。一方で、色板や棒を十分な数用意することが困難な場合もあります。「かたちづくり」では、すべての図形操作活動の場面に QR コンテンツを用意し、ICT 機器を活用してもねらいに即した操作活動ができるようにしています。



▲② p.121 QR コンテンツ
「いろいろなかたちをつくらう」



▲② p.123 QR コンテンツ
「かぞえぼうでかたちをつくらう」

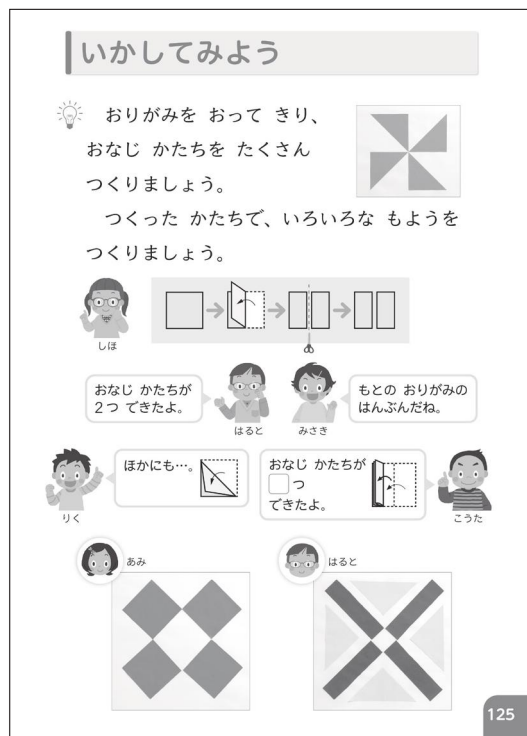
(その他の図形操作 QR コンテンツ)

1年② p.111 「ビルをつくらう」、p.122 「いろいろなかたちをつくらう」、p.124 「せんでつないでかたちをかこう」

③ 以後の学習の素地づくりを重視

☞ 学習したことを生かす活動として、単元の最後に、折り紙を等分してつくった合同な形を用いる模様づくりの活動を設定しました。この活動を通して、図形に対する感覚を磨きながら図形領域の学習の素地をつくることはもとより、2年の分数の学習の素地をつくることも意図しています。

☞ 「新編 新しい算数」では、2学年以降も一貫して領域や学年の枠を超えた学習の素地づくりや関連づけを重視しています。



▲② p.125

観点別特色一覧

観点	特色	箇所
教育基本法および学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ● 数学的な判断に基づき他者の考えを解釈、検討することを重視し、自他の価値を尊重してその能力を伸ばし、創造性を培えるようにしました。 ● 資質・能力の育成のための優れた研究や実践の成果を基に、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を軸とした学習展開を重視しました。 	全体
ICTの活用への取り組み	<p>< QR コンテンツの質・量の充実 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習者用の QR コンテンツ数を充実させました (32 コンテンツ)。授業中の自力解決や集団解決、習熟のための演習、家庭学習など、シーンを選ばず活用することができます。個別最適化された学びの実現にも有用です。 ・記号のかき方や計算の仕方 (動画) …7 コンテンツ ・振り返り (既習の学習内容表示) …4 コンテンツ ・練習問題等 (演習) …8 コンテンツ ・グラフ作成、時計操作、図形の操作 (シミュレーション) …10 コンテンツ ・その他 (端末の使い方、SDGs 関連内容、感染症対策) …3 コンテンツ ● 紙面の当該箇所に掲載した二次元コードから、簡単にアクセスすることができます。また、いずれのコンテンツも 1 年生の子どもが直感的に操作できる仕様です。 <p>< 学習者用デジタル教科書の発行 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習者用デジタル教科書を発行予定です。 1 タッチで QR コンテンツを起動できたり、教科書紙面への書き込みや保存ができたりする、学習者の活用に適した仕様となる予定です。 ● 色反転や自動読み上げ、総ルビなどの専用ビューアの機能を使用することで、特別支援教育の充実を支援します。 <p>*学習者用デジタル教科書の仕様は、予告なく変更することがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ① 9、17、28、32、② 2、33、48、62、120～124 ほか
教師の指導、評価支援 (教師用指導書)	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導計画 (単式、複式など)、評価規準例、展開例、解答例、板書例などで構成した教師用指導書を発行する予定です。 ● 通常の授業をはじめ、オンライン授業でも活用可能な指導者用デジタル教材も付属予定です。教師の働き方改革と指導の充実の両立を目指します。 	
学びの系統性・連続性	<ul style="list-style-type: none"> ● 「単元プロローグ」における既習をふり返って学習課題をつくる活動、問題解決の過程における既習とのつながりへの着目を促す吹き出しや補助発問、後の学習の素地づくりとなる活動などを積極的に取り入れ、学びの系統性や連続性を意識できるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ②26、36、38、46～47、57、60、76、111 ほか
知識や技能の習熟・定着	<ul style="list-style-type: none"> ● 発達段階に応じたゲーム的な活動をふんだんに取り入れ、これらの活動を通して楽しみながら習熟できるように配慮しました。 ● 各時の展開において、数学的な見方・考え方を働かせて既習と当該の学習をつなぐための補助発問や吹き出しを適切に設定し、知識や技能の断片的な詰め込みではなく、発達段階に配慮しつつ体系化しながら獲得することを重視しました。 ● 復習ページ「おぼえているかな？」を適宜設定しました。自社実施の学力調査をはじめとする各種学力調査の分析結果を基につまづきが多い問題を厳選し、習熟度を維持、向上させることができるようにしました。また、次単元のレディネスとなる問題には (おんひ) を付し、つまづきへの事前対応に活用できるようにしました。朝学習や家庭学習用教材として活用し、学習習慣を身につけることもできます。 ● ICT 活用の一環として、数の構成や加減計算、時計の読み方などの習熟のための QR コンテンツを用意し、即時的な正誤判定、結果の記録、やり直し、全答時のアクションなどを取り入れ、子どもが楽しく主体的に練習し、力をつけることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ①12、18、20、②59、68、88 ほか ● ②57、61、64、79、102、112～113 ほか ● ②13、50、59、71、90 ● ①28、②9、18、59、68、71、83、126
思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 教具の操作、図や式、といった表現を、内容に応じてバランスよく取り入れました。 ②からは、内容に応じて操作と図や式による表現を同一箇所に共存させ、それらを行き来して柔軟かつ段階的に思考力・判断力・表現力が身につくようにしました。 ● 思考を表現する場としてノートづくりを重視し、①では、教科書のみを使用してノートづくりの素地を培える判型 (A4 判)、紙質、体様 (中綴じ)、内容にしました。また、②「さんすうのうをつくらう」では、自分の考えを図や式などを用いて表現する例を掲載しました。 ● 特に、同じ数学的な見方・考え方を繰り返し働かせる単元後半の吹き出しは、思考を活性化させつつ答えを書き示してしまわないように内容を精選しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ②4、16、51、52、58、64、78、112～119 ほか ● ①全体、②63 ● ②67、82 ほか
主体的に学びに取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● よりよく問題解決しようとする姿や、発展的に考えようとする子どもの姿を例示しました。 ● 日常生活と学習場面を関連づけ、学習することの意義や学習内容の有用性を実感することができるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ②32、61、89 ほか ● ②2、11、26、29、36、60、72 ほか

組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ● スパイラルに学習することを重視し、加減計算など確実な習熟、定着が求められる内容の指導の学期を分ける、測定領域など同一領域の内容は適切に単元を分けて共通する原理に繰り返し触れることができるようにするなど、単元構成、配列を工夫しました。 ● 加減計算単元などは、単元末に練習ページを設定する、練習の機会を増やすよう学期末や学年末の配置を避けるなどの配慮をしました。 ● 練習問題は、本時の学習内容を適用して理解の確認や技能の確実な習熟・定着がはかれるように、内容と時間を考慮して適切な分量を扱うようにしました。 	全体
保・幼・小の円滑な接続	<ul style="list-style-type: none"> ● 就学前に育った数量や図形などへの関心、感覚を引き出すためのページ「くらべたことがあるかな」では、数や量、形に関わる経験を多数掲載し、想起しやすくしました。 ● 入門期では、多様な個に応じた学習の土作りのために、数字を書き始める位置を●で示す、書き込みスペースを充実させる、数字の書き順を動画面化した QR コンテンツを設定するなどして、スムーズに学習に取り組めるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ① I ● ① 9 など全体
他教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活科、図工など他教科や学校生活と関連する場面を多く採用し、スタートカリキュラムの充実も含め、合科的、教科横断的な指導もできるようにしました。 ● 属人的ではなく、論理に基づいて判断することを積み重ねることで、自他の価値を尊重する態度を養うなど道徳教育との関連に配慮しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ①全体、② 32、91、94、97 ● 全体
特別支援教育への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 色数を減らして落ち着きを出し、余白を生かしたレイアウトとしました。また、カラーユニバーサルデザインを徹底しました。 ● 自社開発の UD 教科書体を採用し、文字の視認性をよくしました。 ● 堅牢かつ軽量の紙を使用し、重量による身体的な負担の軽減に努めました。 ● 拡大教科書を、文字のポイント別に複数種類発行予定です。 	全体

2 対照表

配当時数計：120（予備時数 16）

配当月	配当時数	単元名	学習指導要領・内容名	該当箇所 (①巻)
4	16	①ななまづくりと かず	A(1) ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)イ(ア)	1～33
5	2	②なんばんめ	A(1) ア(イ)イ(ア) B(1) ア(ウ)	34～37
	1	○どのように かわるかな ○しあげよう	A(1) ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)イ(ア) D(1) ア(ア)	38～40
(②巻)				
6	8	③あわせていくつ ふえるといくつ	A(1) ア(イ)(2)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)	2～12
7	9	④のこりはいくつ ちがいはいくつ	A(1) ア(イ)(2)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)	14～25
	5	⑤どちらがながい	C(1) ア(ア)(イ)イ(ア)	26～31
9	3	⑥わかりやすく せいりしよう	A(1) ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア) D(1) ア(ア)イ(ア)	32～35
	9	⑦10 より おおきいかず	A(1) ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)(カ)(キ)(ク)イ(ア)(2)ア(イ)イ(ア)	36～47
	1	⑧なんじ なんじはん	C(2) ア(ア)イ(ア)	48～49
	3	⑨3つの かずの けいさん	A(1) ア(イ)(2)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)イ(ア)	51～54
10	4	⑩どちらが おおい	C(1) ア(ア)(イ)イ(ア)	55～58
	10	⑪たしざん	A(1) ア(イ)(2)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)	60～70
11	4	⑫かたちあそび	B(1) ア(ア)(イ)イ(ア)	72～75
	10	⑬ひきざん	A(1) ア(イ)(2)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)	76～85
12	2	○どんな けいさんになるのかな?	A(2) ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)	86～87
	2	○けいさん びらみっど	A(1) ア(イ)(2)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)イ(ア)	88～89
1	14	⑭おおきいかず	A(1) ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)(カ)(キ)(ク)イ(ア)(2)ア(イ)イ(ア)	91～105
2	1	⑮どちらが ひろい	C(1) ア(ア)(イ)イ(ア)	106～107
	2	⑯なんじなんぶん	C(2) ア(ア)イ(ア)	108～110
	1	○ビルをつくろう	A(1) ア(イ)(ウ)イ(ア)(2)ア(イ)	111
	5	⑰たしざんと ひきざん	A(2) ア(ア)(イ)イ(ア)	112～119
3	6	⑱かたちづくり	B(1) ア(ア)(イ)イ(ア)	120～125
	2	○1ねんの ふくしゅう	A～D	126～128